

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所のぞみの家				公表日	令和 8年 1月 29日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	70%	30%	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーション等を用いて個室空間を設置している。 ・部屋の個数が少ない中でもしきりを使い、課題部屋を作ったり、分散して遊んでいる。 ・個室が1つのため、個別課題、クールダウン、午睡時などにパーテーションを使用し、適切な空間を作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童数に対するスタッフの人数が少なく感じる時がある。 ・個室が増えるといい。 ・広いホールがあり、体を動かして遊ぶことができるが、他事業所との共有スペースであるため、遊具の出し入れや設置等に時間を要してしまう。また、使用したい時に使用することができない時がある。 ・静かな午睡スペースが限られている。 ・パーテーションはダンボールで作ったものでなく専用の丈夫なものが必要。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	78%	22%	<ul style="list-style-type: none"> ・様子を見ながら一対一だけの関わりでなく、環境を整え少ない体制でも見れるようにしている。 ・特性に合わせた利用者同士をペアにして人員配置を考えている ・利用者の状態に合わせて、1対1の配置としたり、複数対1の配置とし、適度な人数の配置としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援、集団支援と時間を分けてメリハリをつけながら支援を行う。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・かごやテーブルを使い、視覚的にわかるようにしている。 ・視覚での表示マークや名前で表示をしたり、わかりやすくしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動スペースが限られているため、今後も視覚的な配慮やエリア分けなどで工夫する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションを使い、その子に合わせて午睡する環境を整えている。 ・定期的な換気や空気清浄機の使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動スペースが限られているため、今後も資格やエリア分けなどで工夫する。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80%	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の時間を時間差で行なっている。 ・壁側に個別のテーブルを設置しておき、課題コーナーにしている個別の部屋が1つのため、パーテーションを使用し、必要時職員が環境作りをしている。 ・パーテーションを使用して個室としている点集中して取り組めるようにパーテーションで区切っている。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	90%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず利用者が、帰ってから職員全体でその日の振り返りをするようにしている。 ・月一の部門ミーティングで共通認識と理解を深めている。 ・毎日のミーティングと月1の定例会議で支援の方向性や行事などの話し合いをしている 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会等で聞いている個別支援会議や家族会でご家族のお話を聞く機会を設けている。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	90%	10%	<ul style="list-style-type: none"> ・会議や日々のミーティングの中で、意見を交わし合っている。 ・その日のうちに話し合いを設けるようにしている。夕方のミーティングでアイデア等話し合って改善につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの機会を設けながら、どんな意見でも出し合え、日々選択と振り返りをしながらチームとして支援の幅を広げていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%	0%		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	・都度、児童発達支援管理者が、日々のミーティングや月1回の会議、必要時は個別担当者へ支援に関する情報を伝え、共有している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	・会議を行なっている毎月の会議で支援内容を配布し、個々の支援の取り組みを話している。 ・会議や終了ミーティングなどを通して職員間で周知している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	90%	10%		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	・その日活動、支援、分かれて活動する際の職員配置等連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	・日々の終了ミーティングにて、確認している。その日の子どもの様子や気付いた点、支援で取り組んでいること等情報を共有している	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	・個別支援日誌やケアコラボに記録をし振り返りや改善に利用している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%	0%		
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	90%	10%		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	100%	0%	・行事を通して交流している地域のこども園とサツマイモの苗植えや焼き芋を企画し交流を図っている。	

保護者への説明等	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	・送迎時に伝えている携帯電話のアプリを導入し、ご利用者の保護者の方々と子どもの状況を共有している。 ・送迎時やケアコラボで、日常的にご家族と情報共有に努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	90%	10%		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%	0%		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	・定期的に保護者会を開催したり、保護者も参加できる行事を開催している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	・定期的に、インスタにて発信している。毎月の便りやInstagramなどで活動の様子などを発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%		
非常時等の対応	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%	0%		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	・ヒヤリハットがあった際、夕方のミーティングで周知し、再発防止策を話あつたり検討したりしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100%	0%		